

環境・社会報告書
Environmental and Social Report 2004



CONTENTS

ごあいさつ 2

環境報告

企業理念 / 環境基本方針 3

環境マネジメントシステム 4

2003年度の環境保全活動 5

環境会計 7

事業活動 / 物質フロー 8

環境教育 / 遵法監査 9

地球温暖化防止 10

廃棄物の抑制 / 水資源の抑制 11

化学物質管理 13

グリーン調達・購入 / 環境表彰 14

環境に配慮した製品開発 15

海外事業所の取り組み 17

社会報告

コミュニケーション 19

社会貢献活動 21

企業倫理 / コンプライアンス 23

人事 / 雇用 / 労働安全 / 福利厚生 24

環境・社会活動の過去10年のあゆみ 25

事業経営データ 26

編集方針

本報告書の名称を「環境報告書」から「環境・社会報告書」へと変更しました。2003年度におけるテルモの環境活動と社会活動の取り組みを分かりやすく報告することにより、みなさまとの円滑なコミュニケーションを心掛けています。

制作にあたり、環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」、事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン(2002年度版)及び「環境会計ガイドライン2002年版」を参考しております。

みなさまからの率直なご意見やご提案をいただき、「環境・社会報告書」をより良い内容にしていきたいと考えています。本報告書に添付されているアンケートでご感想などをお寄せいただければ幸いです。

報告対象組織:テルモ株式会社(一部海外事業所含む)
 報告対象期間:2003年度(2003年4月1日~2004年3月31日)
 (2004年度の活動も一部含まれております。)

報告書発行:2004年10月
 次回発行予定:2005年10月

本報告書は、テルモホームページでも掲載します。
<http://www.terumo.co.jp/environment/index.html>

2003年度の会社の動き

- Apr.**
 - ・圧迫 stockings「ジョブスト フォーメン」発売
 - ・甲府工場の敷地内にプレフィルドシリンジの専用開発棟を建設開始
- Jun.**
 - ・「スルーイン血圧計」発売
 - ・全社コストダウン推進運動「ありプロ。」スタート
 - ・「あり」のようにコツコツと間接費を削減します。
 - ・全社で「マナー意識KAIZENセル」の取り組みスタート
 - ・「自分を変える、テルモが変わる」をテーマにマナーを通じて、テルモをもっと魅力的な会社にしていきます。
 - ・甲府工場燃料転換(LPG 都市ガス)
- Jul.**
 - ・「企業倫理賞」受賞
- Aug.**
 - ・テルモ富士山森づくり
 - ・甲府工場「夏休み工場見学」開催
- Oct.**
 - ・東京第三支店開設
 - ・高い技術力を持つ医療機関が集まる都内できめ細やかなサービスの展開を目指します。
 - ・プラネックス家族見学会
 - ・約300名の社員とご家族が参加しました。
 - ・空気圧式マッサージポンプ「ベノストリーム」発売
 - ・富士宮工場が平成15年度リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞を受賞
 - ・バイオセンサー社とドラッグエルーティングシステム(薬剤溶出ステント)のライセンス契約を締結
- Nov.**
 - ・血糖測定システム「メディセーフミニ」発売
 - ・中国杭州工場三期棟竣工式
 - ・12月には電子血圧計の生産準備が始まり、今後も生産品目を拡大していきます。
 - ・PTCA*拡張カテーテル「Seiryu」発売
 *(経皮的冠動脈形成術)
- Dec.**
 - ・「IR優良企業賞」受賞
 - ・シリンジポンプ「TE-331S/332S」、輸液ポンプ「TE-161S」発売
- Jan.**
 - ・高齢者向け保健機能食品「グランケア」発売
 - ・補助人工心臓の臨床試験をドイツでスタート
 - ・世界初の磁気浮上方式左心補助人工心臓の実用化を目指します。
- Mar.**
 - ・「テルモ電子血圧計P370」発売
 - ・2人分の測定日時・測定値を記憶できます。



企業の社会的責任を、社会的な使命感によって推進

企業経営で私が最も大切にしているのは、企業活動の目標となる「志」です。特に重視しているのはミッション、すなわち「社会的な使命感」です。社会的な貢献をするという使命感が、企業にとってもそこで働く社員にとっても、最高の目的であると考えております。

お陰様で、2004年3月期の連結業績は、売上高2,152億円と、10期連続で増収を続け、この10年間で売上げで約2倍、利益は約30倍になりました。

しかし、志なき成長は意味がありません。ここ数年いろいろな企業で次々と起こった不祥事も、目の利益を追ううちに、いつしか社会的な使命感を置き忘れてしまった結果だと言えます。業績と社会的な使命は両立するものです。社会とのつながりを見失ってしまっただけで一度つまづけば、すべては無になり、企業そのものが存在を許されなくなります。そうなれば、ステークホルダーのみなさまに大変な損失を与えてしまいます。つまり、「使命感なくして成長はあり得ない」というのが、私の信念であります。

そういう観点からも、これまで環境に取り組み、2000年から環境報告書を発行して情報開示に努めてまいりました。今年から、さらに「環境・社会報告書」へステージアップさせ、開かれた経営を実践してまいります。

テルモには、創業以来の企業理念があります。それは、「医療を通じて社会に貢献する」というもので、1921年(大正10年)北里柴三郎博士を中心にした医師24人が集まり、国民保健の向上を願って、国産体温計の製造を目指した、テルモの前身である「赤線検温器株式会社」が設立されて以来、受け継がれてきた理念です。

私はこの社会的な使命感こそが、テルモに働く人たちのエネルギー源だと考えており、企業の社会的責任を果たし、企業が生き残るための重要なカギになると考えています。企業は、常に業績を向上させ、ビジネスを強化しなければ生き残っていきませんが、一方で社会に貢献し、社会的責任を果たさなければ存続する価値がないと思います。



テルモ株式会社
 代表取締役
 会長兼最高経営責任者(CEO)

和地 孝

テルモは2001年に創業80周年を迎え、私は、新しいビジョンとして「テルモはユニークな輝く技術で、人にやさしい医療を実現します」を掲げました。たとえば、すでに新聞などでも報道されましたが、補助人工心臓や、いままでの注射の針よりも痛みの少ない針の開発などはその一例です。これからも、世界中の患者様のために新しい医療を創造しつづけていきたいと思います。

企業理念 / 環境基本方針

私たちテルモは、医療の安全と環境の調和をめざして歩んでいます。

1999年には、「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、

5つの項目からなる環境基本方針を制定。医療分野におけるリーディング企業として、地球環境保全に取り組んでいます。

企業理念

制定1996年11月

テルモは、医療を通じて社会に貢献する。
私たちは、医療の分野において、価値ある商品とサービスを提供し、
医療を支える人・受ける人双方の信頼に応え、社会に貢献します。

開かれた経営	アソシエイトの尊重
<p>私たちは、開かれた経営を基本とし、適正な利潤の確保・還元につとめ、リーディング企業にふさわしいグローバルな事業発展を図ります。</p>	<p>私たちは、個の尊重と異文化の理解を大切に、アソシエイトスピリッツのもとに、未来にチャレンジする風通しの良い企業風土をつくります。</p>
新しい価値の創造	良き企業市民
<p>私たちは、科学的思考と時間と柔軟な発想を重んじながら、価値ある商品とサービスを創造し、より深くお客様のニーズに応えます。</p>	<p>私たちは、公正な企業活動と環境への責任ある行動を展開し、信頼される企業市民をめざします。</p>
安全と安心の提供	
<p>私たちは、誠意とこだわりを持って技術と品質の向上にとりくみ、安全と安心を提供します。</p>	

環境基本方針

制定1999年12月

私たちテルモグループは、企業理念「医療を通じて社会に貢献する」のもと、
医療の安全と安心を提供することを基本に、
リーディング企業として責任ある環境保全活動を展開し、信頼される企業市民をめざします。

<p>1. 自主的な目標を設定し、環境保全活動に努めます。</p> <p style="font-size: small;">事業が環境へ与える影響の把握 環境に配慮した商品開発 環境汚染の予防 エネルギーや資源の有効活用 廃棄物の削減など</p> <p>1. 各国の環境保全に関する法律、条例、協定等を遵守します。</p>	<p>1. 環境保全に関する推進体制を設け、推進・監査に努めます。</p> <p>1. 社会や地域の一員として環境保全活動への支援、協力を努めます。</p> <p>1. 社内広報活動や教育を行い、社員の環境保全に関する意識の向上に努めます。</p>
--	--

環境マネジメントシステム

テルモの環境への取り組みは、環境委員会で定められた自主目標に基づき各事業所単位で推進されます。

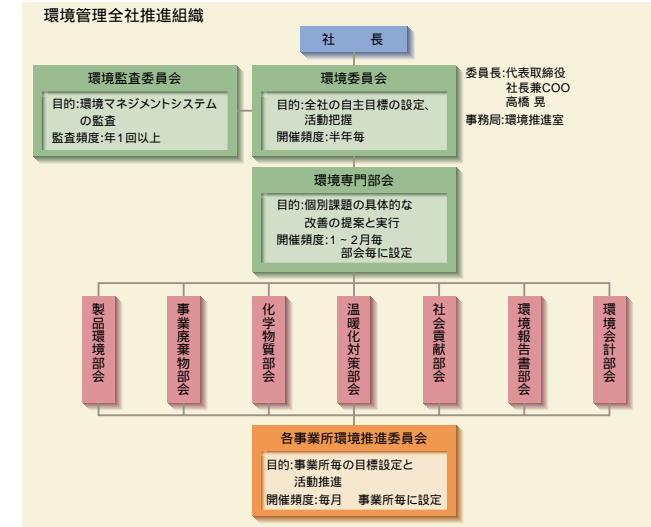
その活動実績を審議・評価し、次回の目標に反映させる「PDCAサイクル」に沿ってマネジメントを展開させることで、継続的な改善活動を実践しています。

環境管理全社推進組織

右の図は、テルモの「環境管理全社推進組織」を表したものです。全社推進組織の最高機関として、社長を委員長とする環境委員会があります。環境委員会では全社の環境保全の施策と目標の設定、活動状況の把握などを行います。

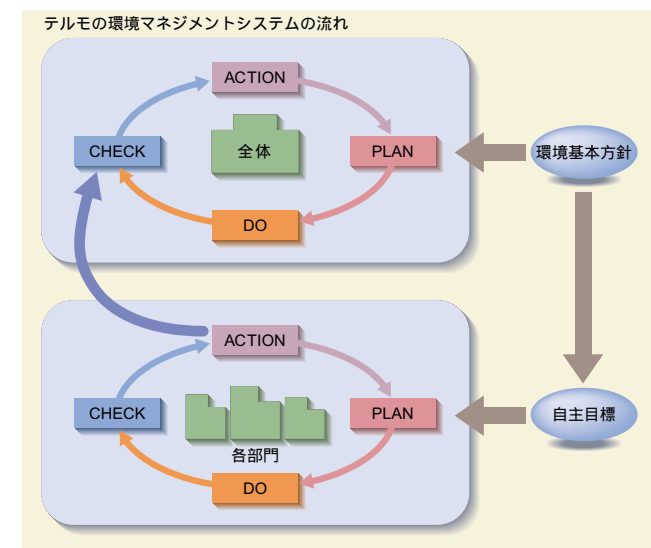
また、環境監査委員会では、環境マネジメントシステムを有効に運用するため、各事業所の内部監査を実施します。内部監査は、客観性・公平性の維持に努め、独自の監査技術の向上を図りつつ、認証機関による審査に匹敵するレベルで行っています。

環境専門部会は、個別課題について具体的な改善を提案・実行する機能を持ち、各事業所の環境推進委員会は、決定した方針に基づいて、各事業所での実行計画の立案と活動推進、情報の共有を進めます。



環境マネジメントシステム

テルモにおける環境への取り組みは、環境委員会で定められた自主目標に基づき、全社・各事業所で実行されます。その実績は「環境委員会」にて審議・評価され、次の自主目標や実行計画に反映するというPDCAサイクルに基づいた継続的な環境保全活動を推進しています。特徴は、計画や実行は、各部門の社員一人ひとりが主体となって取り組んでいる点にあり、これは、「アソシエイトの尊重」と「良き企業市民」という企業理念に基づくものです。また、環境パフォーマンスの改善に繋がる行動を事業活動の中に定着させ、環境に関する国際規格(ISO14001)に準じた、効率的で実効性のある独自の環境マネジメントシステムを構築・運用しています。



2003年度の環境保全活動

テルモの2003年度の主な実績は、愛鷹工場、本社でゼロエミッション達成、電力危機への対応、甲府工場燃料転換などです。
また、海外事業所の現地調査を2003年度より開始しました。

2003年度環境保全活動のハイライト

- 甲府工場燃料転換(LPG 都市ガス) (P.10)
- 電力危機への対応 (P.10)
- ゼロエミッション達成(愛鷹工場、本社) (P.12)
- 海外事業所の現地調査 (P.18)
- テルモ富士山森づくり (P.21)

環境委員長から

2003年度は廃棄物最終処分量と二酸化炭素の排出量削減という2つの大きな目標を前倒しで達成することができました。さらに2つの事業所で、廃棄物最終処分量が総排出量の1%未満というゼロエミッションも同時に達成することができました。

環境保全活動は、事業活動の効率化と長期的な企業リスクにかかわる重要な経営課題となってきます。各事業所の環境推進委員会による環境保全活動をさらに推進するとともに、海外事業所との連携を強化してグループ全体での環境保全活動を進めます。



環境委員長
代表取締役
社長兼最高業務執行責任者(COO)
高橋 晃

環境基本方針	重点テーマ	自主目標(中期目標)	2003年度実績	2003年度評価	2004年度からの取り組み	参照ページ
自主的な目標を設定し、環境保全活動に努めます。	事業が環境へ与える影響の把握	開発・生産・営業活動の中で環境に与える影響を定量的に把握	国内工場と研究所(湘南センター)における事業活動による重要な環境側面とその要素について環境影響評価を実施	達成	国内工場と研究所における事業活動による重要な環境側面とその要素について環境影響評価の実施を継続	P.8
	環境に配慮した製品開発	環境負荷の大きい天然ゴムや塩ビ素材の使用を削減 包装の簡素化によるゴミの減量 取り扱い・分別回収のしやすい製品構造の研究開発	電子血圧計腕帯の脱塩ビ化 輸液ポンプ等の電子医療機器(ME)貸出専用機輸送用梱包材の通い箱化	達成	RoHS*1、WEEE*2指令への対応 ニカド(Ni-Cd)電池の代替実施 <small>*1. 電気・電子機器における特定有害物質の使用制限 *2. 電気・電子機器廃棄物</small>	P.14 P.15 P.16
	環境汚染の予防	2005年度のジクロロメタンの排出量を99t以下	2003年度のジクロロメタン排出量を91tに削減	達成	2005年度のジクロロメタンの排出量を99t以下にする。自主目標継続	P.13
	エネルギーや資源の有効活用	2010年度までに、二酸化炭素排出量を原単位で1990年度比15%削減	2003年度の二酸化炭素排出量原単位は1990年度比16%削減 甲府工場燃料転換(LPG 都市ガス)	達成	2010年度までに、二酸化炭素排出量を原単位で1990年度比15%削減する。自主目標継続	P.10
	廃棄物の削減	2005年度営業を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を1996年度比で80%削減	営業を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を1996年度比89%削減 愛鷹工場と本社の2事業所でゼロエミッション達成【ゼロエミッション:廃棄物最終処分量が総排出量の1%未満】	達成	2005年度営業を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を1996年度比で80%削減する。自主目標継続	P.11 P.12
環境保全に関する推進体制を設け、推進・監査に努めます。	環境マネジメントシステムの構築	国内工場と研究所の環境マネジメントシステムを国際規格(ISO14001)に概ね適合	国内工場と研究所がISO14001に概ね準拠した環境マネジメントシステムを継続維持 国内工場と研究所の環境関連法について遵法監査を実施	達成	国内工場と研究所が環境マネジメントシステムの継続維持	P.4 P.9
社会や地域の一人として環境保全活動への支援、協力を努めます。	ボランティア活動の支援	ボランティア活動の支援	テルモ富士山森づくり(静岡)の実施 多摩川クリーン作戦(東京)への参加及び二宮海岸清掃(神奈川)の実施などボランティア活動の支援	達成	テルモ富士山森づくりをはじめとするボランティア支援の継続	P.21
社内広報活動や教育を行い、社員の環境保全に関する意識の向上に努めます。	環境コミュニケーションの推進	2003年度環境報告書の発行 環境月間の取り組み	2003年度環境報告書の発行 本社スタッフ向け環境セミナーの開催	達成	2004年度環境・社会報告書の発行 環境月間の取り組み	P.9 P.19
各国の環境保全に関する法律、条令、協定等を遵守します。	環境法令の遵守	環境保全に関する法律、条令、協定等の遵守、海外での法令遵守の確認	ヨーロッパ及びアメリカ4事業所の計5事業所で現地調査を実施	達成	英国、フィリピン、中国の事業所の現地調査を実施	P.18

環境会計

テルモでは、環境保全活動にかかわるコストと効果を定量的に集計し、その費用対効果を経営の判断材料にしています。また、生産設備の拡大に伴う環境対応とリスクの低減、環境目標達成のために計画的かつ効率的な環境保全投資を行っています。今年度より環境投資計画のうち、確定しているものを公表します。

環境保全コスト・経済効果 単位：百万円

集計範囲：本社、国内工場及び研究所
対象期間：2003年4月1日～2004年3月31日

分類	環境保全コスト		経済効果		
	主な取り組みの内容	投資額		費用額	
(1)事業エリア内コスト		235	1,275	1,144	
内訳	(1)1 公害防止コスト	廃水処理施設・溶媒回収装置	67	311	111
	(1)2 地球環境保全コスト	省エネ施設	139	471	619
	(1)3 資源循環コスト	廃棄物処理・リサイクル費用	29	493	414
(2)上・下流コスト	環境配慮製品の生産設備等	0	94	71	
(3)管理活動コスト	環境マネジメント関連費用等	0	118	71	
(4)研究開発コスト	製品環境負荷低減のための研究開発費用	0	8	0	
(5)社会活動コスト	緑地の維持整備等	3	114	0	
(6)環境損傷対応コスト	該当なし	0	0	0	
合計		238	1,609	1,286	

投資額：2003年度中に実施された公害防止設備・省エネ設備・緑地などへの投資
費用額：公害防止設備・省エネ設備などにかかる減価償却費、維持管理費、環境配慮製品の開発費用、廃棄物処理費用、リサイクル費用、緑地の維持費用、環境教育費用など
(投資額、費用額ともに環境保全目的のコストを差額集計(按分集計を含む)しています)
経済効果：省エネによるコスト削減、原材料費削減など
(売上に対する貢献度など推定に基づいた集計(いわゆるみなし効果)は含めていません)

当該期間の投資額・研究開発費総額 単位：百万円

項目	金額
当該期間の投資額の総額	8,586
当該期間の研究開発費の総額	10,938

有価物の売却額 単位：百万円

項目	金額
塩ビ、ポリプロピレン、金属くずなどの売却額	13

環境保全効果

項目	2003年度実績	対前年度比
廃棄物最終処分量	256t	48.7%
エネルギー消費量	2,544,124GJ	0.7%
二酸化炭素排出量	121,907t-CO ₂	4.0%
化学物質(排出量)	ジクロロメタン	91t 9.9%
	トルエン	10t 9.0%
	テトラヒドロフラン	6t 62.4%
水資源使用量	3,443千m ³	4.3%

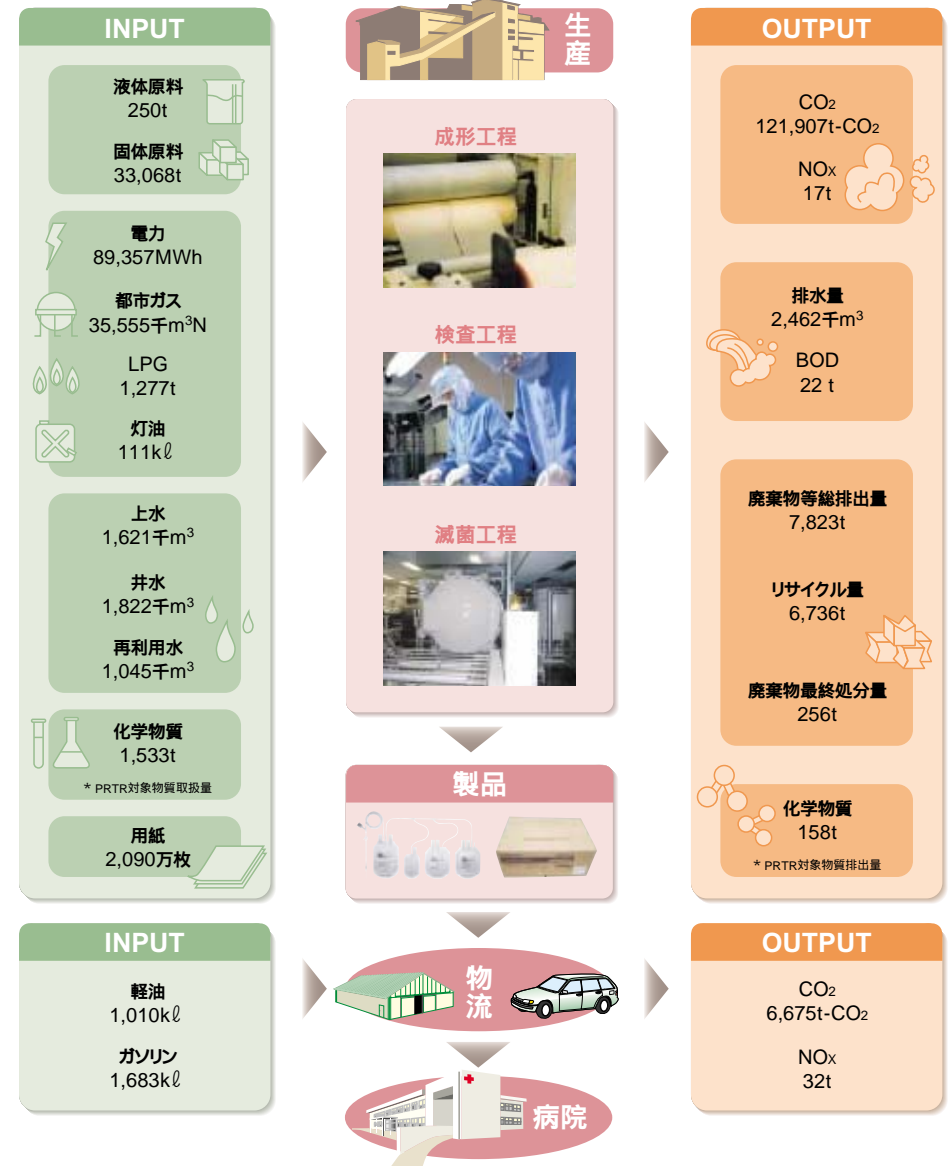
：対前年度の削減を示す

2004年度の環境投資計画(確定しているもののみを記載) 単位：百万円

分類	項目	投資予定額
公害防止コスト	排水処理場リターンポンプ、減菌ガス処理装置など	22
地球環境保全コスト	空調機インバーター化、照明インバーター化、ボイラーブロー流量計、素材洗浄脱フロンテスト装置、ジクロロメタン回収装置のボイラー天然ガス化	82
資源循環コスト	水削減対策の流量計設置、廃棄物粉碎機導入、設置工事、廃棄物関連メンテ、再資源化設備導入、成形機冷却水再利用設備導入など	50

事業活動 / 物質フロー

エネルギーや原材料などのインプットに対し、生産活動の過程で二酸化炭素や排水、廃棄物などがアウトプットされるという環境負荷を把握し、また、これらを指標とすることで、環境負荷の低減に取り組んでいます。



* 物流におけるNOx排出量は、環境省「環境活動評価プログラム(2002年4月)」の係数を用いて算出しています。

環境教育 / 遵法監査

テルモでは、新入社員研修や環境セミナーなど環境教育体制を整備しています。2003年度は、営業担当者向けに環境教育を重点的に行いました。また、国内工場や研究所の環境リスクを低減することを目標に遵法監査を実施しました。

環境教育の実施状況

営業担当者向け環境研修

2003年5月、8月、12月に、全国の営業拠点全39カ所において、営業担当者の環境関連法規制及びテルモの取り組みに対する理解向上のため、環境研修を実施しました。

本社スタッフ向け環境セミナー

環境月間の一環として、2003年6月、本社スタッフに対して、省エネ意識及び廃棄物処理法に関するコンプライアンス意識向上のため、環境セミナーを開催しました。

内部環境監査員研修

2003年12月、富士宮工場において、外部講師(鈴木敏夫先生)による、内部環境監査員に対する、最新環境関連法規制習得を目的とした研修を開催しました。



内部環境監査員研修

営業拠点環境管理担当者工場実習

2003年3月、高松支店、川越支店及び営業管理部の環境管理担当者3名が、愛鷹工場において、

- 1) 愛鷹工場の環境に対する取り組み
- 2) 廃棄物の分別、解体実習
- 3) 工場担当者との意見交換等を実施しました。今後も継続して実施する予定です。

営業拠点及び本社環境管理担当者「特別管理産業廃棄物管理責任者講習」

2003年度、廃棄物処理法に関する高度な知識を習得する目的で、営業拠点及び本社の環境管理担当者(27名)が、各都道府県が実施する「特別管理産業廃棄物管理責任者講習」を受講しました。その結果、全国39カ所の営業拠点のうち、1拠点を除く全営業拠点に、特別管理産業廃棄物管理責任者講習修了者がいます。2004年度中に全営業拠点で受講を完了する予定です。

環境教育・研修一覧表

研修名	実施月	内容	参加人数
新入社員研修	4月	環境	50名
第1回営業担当者向け環境研修:全営業拠点(39カ所)	5月	環境	918名
本社スタッフ向け環境セミナー	6月	環境	73名
第1回首都圏営業拠点ブロック長向け環境研修	7月	環境	15名
第2回営業担当者向け環境研修:全営業拠点(39カ所)	8月	環境	918名
第2回首都圏営業拠点ブロック長向け環境研修	11月	環境	15名
第3回営業担当者向け環境研修:全営業拠点(39カ所)	12月	環境	918名
特別管理産業廃棄物管理責任者講習	年間	廃棄物処理法	27名
内部環境監査員研修	12月	環境監査	25名

遵法監査の実施状況

監査目的

法令違反や社会問題などを起こさせないため、現在から将来における環境リスクを低減させることを目的としています。

監査項目

- 1) 環境関連適用法令の明確化とその遵法性確認
- 2) 事業所からの排出物の確認
 - 排水経路と排水口の確認
 - 敷地境界における化学物質の測定の実施状況とその結果の確認
 - 廃棄物の処理ルートと処理方法の確認
- 3) 化学物質の使用状況確認
- 4) 作業環境管理状況の確認
- 5) 近隣住民、行政等からの苦情、指導事項と対応の確認

遵法監査結果

監査実績

国内工場(甲府工場、富士宮工場、愛鷹工場)、研究所(湘南センター)

監査結果総括

- 1) 環境関連法への遵法性については、法令細部規定の見落とし等で一部不備があったが、各事業所とも重大な不備はなかった。
- 2) 各事業所とも近隣住民からの苦情はなく、敷地境界における環境測定の実施や廃棄物管理について、法規制より厳しい管理が行われていた。また、雨水を含む事業所全体の排水水について総合管理体制の整備がスタートした。

環境関連法規制の遵守状況

行政機関等の社外からの環境関連法規の遵守状況に対する指摘はありませんでした。



遵法監査の実施状況

遵法監査の対象環境法令

大気汚染防止法、水質汚濁防止法、下水道法、浄化槽法、悪臭防止法、騒音規制法、振動規制法、公害防止組組法、省エネ法、地球温暖化対策推進法、改正リサイクル法、廃棄物処理法、家電リサイクル法、フロン類回収破壊法、PCB廃棄物特別措置法、PRTR法、土壌汚染対策法、河川法、電波法、毒物・劇物取締法、工業用水法、環境基準、静岡県地下水の採取に関する条例、山梨県地下水源の保護及び採取適正化に関する要綱、労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則、特定化学物質等障害予防規則、作業環境測定法の作業環境関連事項)、富士宮市公害防止協定

地球温暖化防止

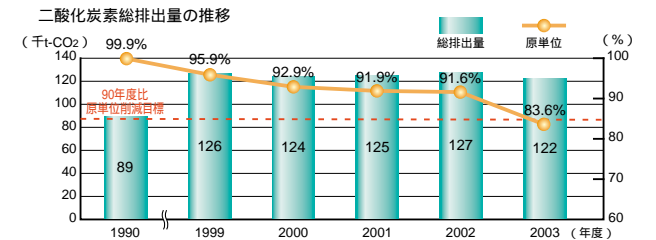
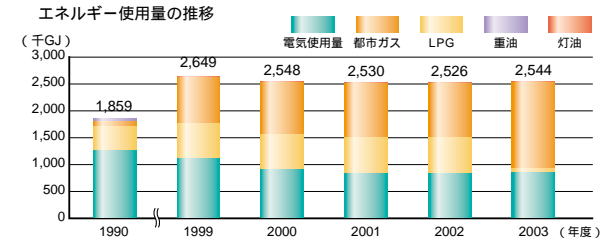
エネルギーの使用による二酸化炭素の排出は、地球温暖化に大きな影響を及ぼします。テルモでは、「二酸化炭素排出量削減目標」を定めて二酸化炭素排出量を低減させるために、二酸化炭素排出量の少ない都市ガスへの燃料転換を2003年度に国内全工場で完了しました。

地球温暖化

1997年から開始した二酸化炭素排出量の少ない都市ガスへの燃料転換は、2003年度の甲府工場のLPGから都市ガスへの燃料転換によって、国内全工場で完了しました。これによって、テルモが推進してきた「ガスコージェネレーションの導入」「都市ガスへの燃料転換」が完了しました。その結果、エネルギーの使用内訳は購入電力34.5%、LPGガス2%、都市ガス62.8%、灯油0.2%となり、二酸化炭素排出量の製品売上高原単位は、1990年度比83.6%となりました。これは、2010年の目標を7年前倒して達成できましたが、今後、生産物量増、防虫対策のため夜間休日空調運転等のエネルギー負荷の増大が予想されるため、これを維持することは大変厳しい目標となっています。

二酸化炭素排出量削減目標

2010年度までに、二酸化炭素排出量を原単位で1990年度比15%削減



* エネルギーの発熱量換算は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則(2003年2月改正)」に基づいた換算係数を用い、また、二酸化炭素排出量の換算は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(2002年12月改正)」に基づいた換算係数を用いて、発熱量、二酸化炭素排出量を算出しています。

電力危機への対応

2003年度に発生した、原子力発電所の点検による運転停止で想定された夏季電力危機に対して、工場地区は夏季休暇を夏季の最大需要時期にシフトさせる場合の空調停止、湘南センターは昼休みの空調停止による日中ピーク時消費電力の削減等を行うことで、送電停止に伴うリスクの低減を図るとともに首都圏での停電の回避に協力しました。結果として2003年7~9月期は2002年度同期より電力消費量を4%削減することができ、社会貢献の一助となりました。

また、電力消費が多い甲府工場では政府からの電力カット要請を想定し、対応訓練を行いました。訓練により約10%のカットが可能であることを検証し、手順化を行うことで、次回電力危機への備えができました。

甲府工場燃料転換

甲府工場は使用する燃料ガスを、2003年6月にLPGから都市ガスに全面切り替えを実施しました。

新潟県南長岡ガス田から長野県を経由するパイプラインが、山梨県昭和町まで整備されたのを機会に供給を受けることとしました。

これによりコージェネレーション設備・ボイラーより排出される二酸化炭素は5,000t-CO₂/年の削減が可能となりました。また、発熱量当たりの二酸化炭素発生量は約15%減少しました。

ガスの種類と単位エネルギー当たりのCO₂排出量

ガスの種類	単位エネルギー当たりのCO ₂ 排出量	比較
LPG	0.0598 kg-CO ₂ /MJ	100%
都市ガス	0.0506 kg-CO ₂ /MJ*	85%

* 甲府ライン都市ガスの値

新潟県南長岡ガス田からのパイプライン



廃棄物の抑制 / 水資源の抑制

2003年度は、愛鷹工場と本社でゼロエミッションを達成しました。

特に愛鷹工場においては、廃棄物最終処分量を大幅に削減することができました。

また、富士宮工場では、水の4Rを推進する削減プロジェクトに取り組んでおり、大きな成果が得られました。

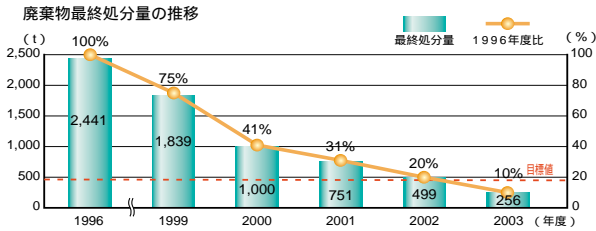
今後も富士宮工場をはじめ、国内の生産工場での水資源使用量削減に努めていきます。

廃棄物最終処分量の削減

テルモは、2003年度からのステップアップ3カ年目標を「2005年度営業を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を1996年度比で80%削減」と定めました。2003年度の廃棄物最終処分量は1996年度比90%削減となり目標を達成しました。自主目標は今後も継続します。

廃棄物最終処分量削減目標

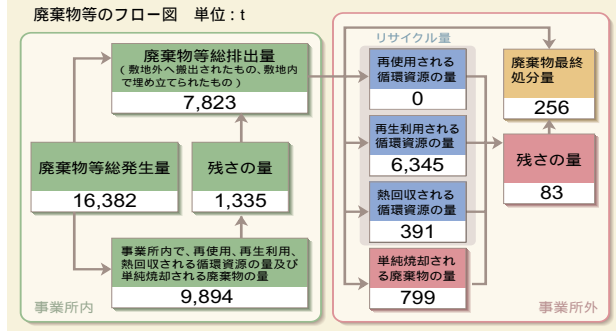
2005年度営業を除く国内事業所の廃棄物最終処分量を1996年度比で80%削減



廃棄物管理

廃棄物処理の外部への委託に関して、チェックリストを設けて、計画的に収集運搬委託先・処理委託先について、現地確認を実施し、廃棄物の適正処理確認と不法投棄等のリスク回避を進めます。

2003年度は、24カ所の委託先についての現地確認を実施しました。中間処理施設の現地確認



ゼロエミッション

2003年度に、愛鷹工場と本社において、廃棄物のゼロエミッションを達成しました。これからは、OA化の推進と両面印刷の活用による紙の使用量削減、生産用資材納入時の過剰包装の見直しや通い箱化等による廃棄物の削減に取り組んでいます。



愛鷹工場の廃棄物置場

TOPICS 愛鷹工場のゼロエミッションについて

愛鷹工場では、1999年度から本格的に廃棄物対策に取り組み、「愛鷹工場は我が家と同じです」のスローガンのもと、工場一丸となった全員参加による分別収集の徹底と適正リサイクルの推進により、当初620t/年あった廃棄物最終処分量を2003年度4t/年までに削減し、ゼロエミッションを達成しました。



愛鷹工場 工程管理課 小林 隆

*ゼロエミッションの定義 最終処分量が廃棄物等総排出量の1%未満

愛鷹工場での廃棄物処分の分類表

1. 廃油・廃液	12. リサイクル用紙	23. MDI専用
2. 埋立処理廃棄物	13. 針、刃物、乾電池	24. 紙プラスチック、保冷剤
3. プレスビニール	14. 市焼却物	25. 金属入り廃プラスチック
4. 空ドラム缶	15. ポリカーボネート	26. ジュース缶
5. 木屑	16. ポリ袋	27. ガラスビン
6. 大型廃プラスチック	17. 塩ビチューブ・シート	28. 一斗缶
7. 手作業分別品	18. EVAチューブ	29. 紙芯
8. リレー、マイクロスイッチ、電線	19. ラベル台紙	30. 粉砕用廃プラスチック
9. 蛍光灯	20. ダンボール	31. ダンボール(雨天時専用)
10. ステンレス屑、鉄屑	21. プレス済み缶	32. 分類不明物
11. 生活ゴミ	22. 発泡スチロール	

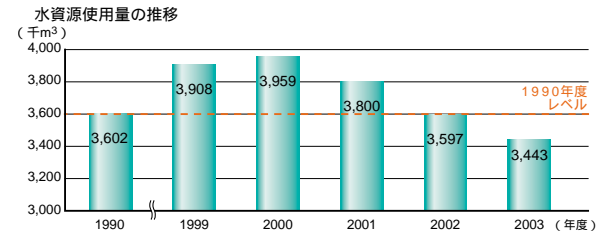
水資源使用量削減

水資源使用量削減

テルモでは、水資源使用量削減のために冷却水の循環利用、水資源使用の最適化を行っています。2003年度の水資源使用量は3,443千m³となり、2002年度と比べて約4%削減しました。今後も水資源使用量を1990年度レベルに維持していきます。

水資源使用量削減目標

水資源使用量を1990年度レベルに維持

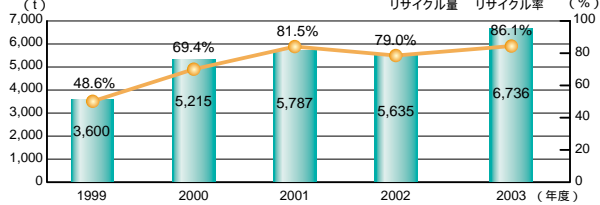


リサイクル化の促進

主なリサイクル内容

テルモは各工場において廃プラスチックをCD、DVDケースなどの再生原料としてリサイクルしています。また、甲府工場において

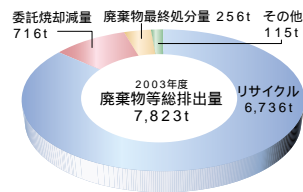
リサイクル量とリサイクル率の推移



でも汚泥を人工砂として再利用しています。これらの成果もあり、2003年度のリサイクル率は86.1%となり、2002年度より7.1ポイント向上しました。

2003年度の廃棄物等総排出量(全社)は7,823tになりました。その内訳は、リサイクル6,736t、委託焼却減量716t、廃棄物最終処分量256t、その他115tです。

廃棄物等総排出量(全社)と処理・処分内訳



ル率が2002年度には94.2%と大幅に向上し、廃プラスチックの社内焼却も廃止することができました。



3R推進協議会 会長賞を受賞

富士宮工場が環境リサイクルで3R推進協議会会長賞を受賞

2003年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者表彰で、富士宮工場が会長賞を受賞しました。富士宮工場では1998

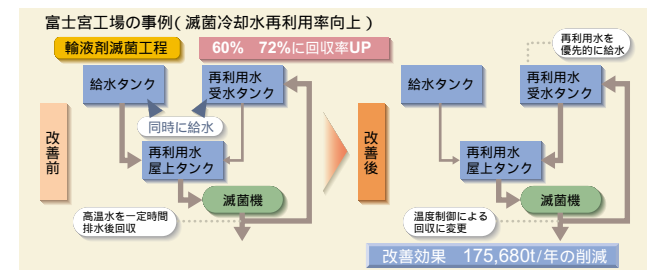
年よりプロジェクトをスタートさせ、輸液剤や血液バッグ生産工程から発生する廃プラスチック、工場排水からの有機性汚泥のリサイクルに取り組んでいました。この結果、1998年度に51.7%だったリサイク

富士宮工場の水資源削減事例

富士宮工場では、節水対策のための主要7項目を設けています。

- 1) 血液バッグ製造ライン真空ポンプ水の削減
- 2) 滅菌冷却水の再利用率の向上
- 3) 冷却水の再利用化
- 4) 逆浸透濃縮水の再利用化
- 5) 血液バッグチューブ冷却水の削減
- 6) 製膜ライン洗浄水の削減
- 7) 血液バッグ滅菌関連の節水

今後も、工場内で水の4R「リデュース(削減)」「リプレース(用途変更)」「リユース(再利用)」「リサイクル(再利用)」を推進し、水資源の有効活用と節水を実践していきます。



化学物質管理

テルモの各工場で取り扱われる化学物質は、環境への排出実態や移動量など、徹底して把握・管理されています。自主的に定めた「化学物質排出削減目標」に基づき、化学物質の排出抑制や使用量の削減、リサイクルが行われます。

ジクロロメタンの削減について

2005年度のジクロロメタン排出量の削減目標である99t以下を前倒して達成しました。

土壌・地下水への汚染防止

2003年7月と2004年1月に甲府工場にある6つの観測井戸において、7種の有害物質(六価クロム、1,1,1-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、ジクロロメタン、ベンゼン、ホウ素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素)を測定することによって、地下水の汚染状況を確認しました。その結果、7物質全てが環境基準以下でした。

PCBの管理

テルモでは、社内のPCBを含むトランス、蛍光灯安定器等は全て取り外しを完了し、富士宮工場と愛鷹工場に集約保管しています。また、「微量PCBの混入の可能性」問題への準備として使用重電機器の製造期間の調査及び区分を完了しました。

PRTR法*対象物質 単位：t

化学物質名	量	甲府	愛鷹	富士宮	湘南	合計	化学物質名	量	甲府	愛鷹	富士宮	湘南	合計
エチレンオキシド (EOG)	取扱量	19	31	11	0	61	トルエン	取扱量	11	0	1	3	15
	排出量	2	3	3	0	8		排出量	9	0	1	0	10
	移動量	0	0	0	0	0		移動量	2	0	0	2	4
ジクロロメタン	取扱量	112	38	0	0	150	フタル酸ジ-n-ブチル (DBP)	取扱量	0	44	0	0	44
	排出量	69	22	0	0	91		排出量	0	0	0	0	0
	移動量	0	15	0	0	15		移動量	0	44	0	0	44
HCFC-141b	取扱量	24	0	15	0	39	テトラヒドロフラン (THF)	取扱量	0	0	7	0	7
	排出量	19	0	14	0	33		排出量	0	0	6	0	6
	移動量	0	0	1	0	1		移動量	0	0	1	0	1
HCFC-225	取扱量	2	21	4	0	27	アジピン酸ジ (2-エチルヘキシル) (DEHA)	取扱量	2	0	0	0	2
	排出量	2	4	3	0	9		排出量	0	0	0	0	0
	移動量	0	17	1	0	18		移動量	0	0	0	0	0
フタル酸ジ (2-エチルヘキシル) (DEHP)	取扱量	570	15	600	0	1,185	フッ化水素	取扱量	0	3	0	0	3
	排出量	0	0	0	0	0		排出量	0	1	0	0	1
	移動量	13	0	37	0	50		移動量	0	0	0	0	0

* PRTR法：「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化学物質排出把握管理促進法）」

TOPICS 想定される緊急事態

テルモの国内各工場は、東海地震対策の強化地域に立地しており、地震発生をも想定した二次災害の予防のために、訓練を実施しています。



総合防災訓練

訓練一覧

種類	訓練内容	参加人数	備考
総合防災訓練	避難訓練	2,872名	工場、本社、研究所
緊急連絡訓練	緊急連絡網訓練	66名	工場
消火訓練	消火器、消化栓を用いた訓練	378名	工場、研究所
救命、救急訓練	普通救命講習、応急処置訓練、救急用担架使用訓練	61名	工場、研究所
呼吸器、救助袋訓練	救助袋、空気呼吸器の使用訓練	41名	工場
衛星電話訓練	衛星携帯電話の連絡訓練	120名	工場

グリーン調達・購入 / 環境表彰

テルモでは、2006年7月からはじまるEUでのRoHS指令の対応に向け、対象有害物質の含有について調査を開始しました。

グリーン購入に関しても、低公害車の切り替えなどの割合を増やしていく方針です。また、テルモでは一連の環境保全活動を表彰する社内表彰制度を設けています。

グリーン調達

欧州電気電子機器化学物質規制への対応

2006年7月からEUでは、RoHS(電気・電子機器における特定有害物質の使用制限)指令により、水銀、鉛、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDEの電気電子機器への使用が制限されます。テルモで製造している医療用電子機器は、現時点でRoHS指令の対象とはなっていませんが、確定してから

対策を進めるのでは、対応に遅れが生じる可能性が高いと判断し、2003年秋から欧州向け輸出製品の部品供給元にご協力いただいて、対象有害物質の含有について調査を開始しました。調査はグリーン調達調査共通化協議会(JGPSSI)の共通フォーマットを使用して実施しています。今後、収集した情報をもとにRoHS指令の施行までに確実に対応が取れるよう、準備を進めます。



グリーン調達調査共通化協議会の共通フォーマット

グリーン購入

テルモでは、製造工程やオフィスでの事務用品やその他備品に関して、ガイドラインを設定した上でグリーン購入を実施しています。2003年度の結果は右表のようになりました。今後もグリーン購入割合を増やしていく方針です。

2003年度のグリーン購入実績 数量：千個 金額：千円

区分	データ	総合計	エコマーク品		グリーン購入法		グリーンマーク品	
			内訳	内訳	適合品内訳	内訳		
本社・営業合計	購入数量	23	9	40%	11	48%	1	6%
	合計金額	9,324	2,744	29%	3,121	33%	554	6%
工場合計	購入数量	45	19	42%	20	44%	4	8%
	合計金額	21,423	6,293	29%	7,129	33%	1,113	5%

* エコマークは財団法人日本環境協会の登録商標、グリーンマークは財団法人古紙再生促進センターが制定したマークです。

低公害車

テルモでは、2004年3月末現在で総台数884台の社有車があり、そのうちの304台は超-低排出ガス車となっています。総台数に占める超-低排出ガス車の導入率は34.4%です。

低公害車所有台数

区分	台数
超-低排出ガス車	304
優-低排出ガス車	2
良-低排出ガス車	89
その他	489
合計	884



導入した超-低排出ガス車

社内環境表彰

テルモでは、環境保全に関して著しい成果をあげた施策や活動に対して社内表彰制度を設けています。2003年度は、海外事業所(TMC/TCVSメーランド)がはじめて表彰されました。



TMC/TCVSメーランド工場メンバー



愛鷹工場メンバー

表彰年度	賞名	表彰グループ及び件名
2000年度	環境貢献賞	愛鷹工場環境推進委員会「廃棄物リサイクル率の向上と省エネルギー」
	環境努力賞	湘南センター環境推進委員会「727kWhのエネルギー削減」
2001年度	社長表彰	富士宮工場生産2部「富士宮工場生産2部の水削減」
	部門長表彰	甲府東工場保全課「甲府環境保全活動推進」
2002年度	社長表彰	環境ホルモン対策プロジェクト「脱DEHP*(TOTM)*2商品化戦略推進」
	部門長表彰	富士宮工場生産1・2部水資源削減プロジェクト「富士宮工場の水削減」
2003年度	社長表彰	愛鷹・駿河環境推進委員会「愛鷹・駿河環境対策の推進」
	部門長表彰	TMC/TCVSメーランド工場「環境対策の推進」

*1 DEHP「フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)」
*2 TOTM「トリメチル酸トリ(2-エチルヘキシル)」

環境に配慮した製品開発

テルモの製品は、安全性に配慮した設計に加え、環境負荷の低減も考慮して作られています。

製品に触れる医療関係者の方や患者様、そして地球環境にも優しい製品開発に取り組み、社会のニーズに応えられるよう努力しています。

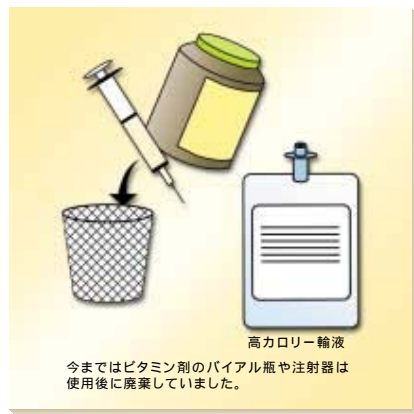
高カロリー輸液

従来、手術後の患者様の栄養補給等に使用される高カロリー輸液では、基本液にアミノ酸、電解質、ビタミン等を混合して使用していました。テルモでは田辺製薬株式会

社と共同で、使用時に簡単な操作でこれら全ての薬剤を混合することができる製品を開発しました。ビタミン剤のバイアル瓶や注射器などの廃棄物の発生を軽減すること

ができます。

また、冷蔵保存・冷蔵輸送の必要がないので物流・保存段階での二酸化炭素の発生量を削減することもできるようになりました。



高カロリー輸液

今まではビタミン剤のバイアル瓶や注射器は使用後に廃棄していました。



バイアル瓶や注射器などの廃棄物の発生を軽減することができます。

プレフィルドシリンジ

テルモでは注射剤の取り扱い手技を簡素化し、医療機関の負担を軽減するために、薬剤があらかじめ注射器内に充填されているプレフィルドシリンジを販売しています。薬剤があらかじめ充填されているため、バイアル瓶の廃棄物が発生しません。

テルモはこれからもより安全な医療を提供し、また医療経済性にも優れた製品の開発に注力していきます。

プレフィルドシリンジの特徴

- 1 院内感染の防止に役立ちます
混注操作時の細菌感染の危険を低減します。
- 2 薬剤の取り違えを予防します
注射器にあらかじめ薬液が入っており、薬剤名がラベルされているので、取り違え防止に寄与します。



プレフィルドシリンジ

3 病院業務の効率化に役立ちます

日々忙しい薬剤師さんや、看護師さんなどが器具を用意したり、薬液を混合したりする手間を省き、業務の効率化に貢献します。

充電式電池のリサイクルに対する取り組み

テルモは、小形充電式電池のリサイクルを推進している有限責任中間法人JBRC (Japan Portable Rechargeable Battery Recycling Center: 旧小形二次電池再資源化推進センター) に入会しています。

2003年度はニカド電池、ニッケル水素電池、リチウムイオン電池、小形シール鉛蓄電池を6,428kg回収しました。2004年度も引き続き小形充電式電池のリサイクルを推進していきます。



電子血圧計

医療現場の脱水銀を推進

1992年、テルモはベッドサイドで使用可能な病院向け電子血圧計を販売開始して以来、医療現場での脱水銀を展開してきました。現在、病院内での水銀血圧計使用率が約70～80%とまだまだ脱水銀が進んでいないのが現状です。

これまでの電子血圧計では、例えば、測

定値のばらつきや脈の弱い患者様の血圧を測定しにくいなどいくつかの課題がありました。テルモは、新しい測定原理を開発して、これらの課題を解決することを目指し製品化を進めてきました。2004年秋、新型電子血圧計を販売開始して、さらに医療現場での脱水銀を積極的に推進していきます。



新型電子血圧計

輸送用梱包材の通い箱化

テルモでは2002年よりデモや修理代替で医療機関に貸出を行う電子医療機器貸出専用機の通い箱化を開始しました。精密機器であるので品質を確保するための梱包材がかさばり、ゴミが発生することが大きな問題になり、そのため梱包材を再使用可能なものにして、保管スペースとゴミの削減を図ることが必要になりました。

市販されている通い箱をいくつか検討した結果、株式会社ハイパーテックジャパンと共同で、テルモの製品にあった再使用可能な梱包材を開発していくことが最良の選択と判断しました。仕様を設定する際の課題は、緩衝材のトラブルで精密機器に異常

を起さないようにすることであったため、輸送試験を繰り返しながら材質を変更し、十分使用に耐えるものに仕上げる事ができました。



通い箱(折たたみ時)

なお、この通い箱は「2003 日本パッケージコンテスト(社団法人 日本包装技術協会)」で、「日本貿易振興会理事長賞」を受賞しました。



通い箱(使用時)

TOPICS 血圧計腕帯の脱塩ビ「開発者のこだわり」

全社的に展開された「脱塩ビ」への取り組みの中で、電子医療機器においては塩ビの使用は少なく、加工工程で塩ビを使用しているのは唯一電子血圧計の腕帯でした。

腕帯に使われている塩ビは空気袋のシート材、血圧計本体と接続するためのチューブ、そして前者どうしを連結するためのノズルの3点。シート材、チューブは比較的早い段階で塩ビ以外の材

料置き換えられましたが、唯一金型を使用し射出成形される「ノズル」だけは塩ビ代替材で成形しても形にすならず、高いハードルでした。

日程を新型の家庭用血圧計の上市に合わせ、工場内外から情報を収集し、何度となく成形試作を重ね、材料が決まり金型を一部改造することにより、ついに塩ビを使用しない家庭用腕帯が完成しました。このノズルは1gにも満たな

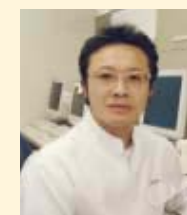
い小さなもので大きく注目を浴びることもない部品でしたが、気がついてみればそこには様々なノウハウが詰め込まれていました。きっかけは全社的に展開された「脱塩ビ」への取り組みでしたが、そこで交わった約束を守ることにより、環境への意識の変化や、技術者の肥やしとも言えるノウハウを得ることができました。



脱塩ビ化された腕帯を用いた血圧計



脱塩ビ化されたノズル



愛鷹工場内 駿河 開発課 山鹿 雅貴

海外事業所の取り組み

テルモの環境保全活動は日本にとどまらず、ヨーロッパやアメリカなどの海外事業所においても積極的に進められています。

エネルギーや水資源使用量の削減、化学物質の管理、廃棄物のリサイクル推進などに加えて、2003年度より海外事業所の現地調査を実施しました。

海外事業所の取り組み

テルモメディカル社・
テルモカーディオバスキュラー
システムズ社(メリーランド工場)

2003年度の取り組み成果

1) エネルギー・水資源使用量の削減

エネルギーは、これまでに導入してきた送風機とエアドライヤーをシステム化し、需要変動に対応できる最適制御、また蛍光灯安定器、空調冷却塔のインバーター化、電力使用量監視のためのモニターシステムが、着実な成果をあげ、電力においては前年度比で16%、天然ガスでは20%削減しました。また、水資源使用量においても、自動水洗とフラッシュバルブの効果により前年度比4%削減しました。

2) フロン及びVOC*排出量の削減

インシュリンシリンジ製造ラインでは、HCFC-141bから規制対象外のヘプタンへの切り替えを完了し、前年度比92%削減しました。またVOC規制対象物質のイソプロピルアルコールについても、工程の見直しにより排出量削減を図り、使用量において前年度比37%削減しました。

* VOC：揮発性有機化合物

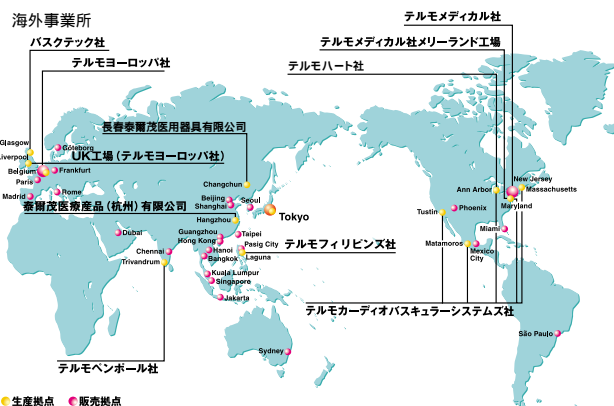
3) 米国における環境マネジメント活動
環境・コンプライアンスマネージャーが、米国内にあるテルモグループ事業所(アンナーバー、タスティン、アシュランド)の現地担当者と協力して、推進しています。

社会貢献活動

メリーランド工場では、1994年以来、Adopt-A-Highway Programに参加しており、工場周辺の道路の清掃活動を行っています。



工場周辺の道路の清掃活動



海外事業所現地調査

2003年10月にテルモヨーロッパ社(ベルギー)、2004年3月にテルモメディカル社(メリーランド)、テルモカーディオバスキュラーシステムズ社(メリーランド、ミシガン、カリフォルニア)の各事業所を訪問し、環境関連法規の遵守状況及び省エネ・リサイクル等の資源の効率利用状況について現地調査を行いました。

テルモヨーロッパ社(ベルギー)

調査担当者：1名(テルモ本社)

結果：指摘事項はありませんでした。

(1)今後予定されている法規制への対応を予定どおり実施すること、(2)製品関連環境規制(RoHS、WEEE指令、バッテリー指令)について、今後も本社との連絡を維持することの確認を行いました。

米国事業所(2法人4事業所)

調査担当者：3名(テルモ本社2名、テルモヨーロッパ社1名)

結果：指摘事項はありませんでした。

メリーランド工場では、HCFC-141bのヘプタンへの代替を進めており、同時に総VOC排出量を法規制対象以下に削減する取り組みが成果をあげつつありました。

電子機器を製造する事業所については、欧州環境規制について情報収集等の検討を進める必要があることの確認を行いました。



化学物質管理
容器が載っている台は上部が網の目状になっており、薬品がもれても汚染の拡散を防ぎます。



マテリアルリサイクルされる廃プラスチック



海外事業所現地調査風景

環境パフォーマンスデータ

事業所	テルモメディカル社 テルモカーディオ バスキュラーシステムズ社	テルモカーディオ バスキュラーシステムズ社	テルモカーディオ バスキュラーシステムズ社	テルモカーディオ バスキュラーシステムズ社	テルモカーディオ バスキュラーシステムズ社	テルモ ヨーロッパ社	テルモ ヨーロッパ社 UK工場	バスケテック社	テルモ フィリピンズ社	泰爾茂医療産品 (杭州)有限公司	長春泰爾茂 医療器具有限公司	テルモ ベンポール社	
所在地	アメリカ メリーランド州	アメリカ ミシガン州	アメリカ カリフォルニア州	アメリカ マサチューセッツ州	メキシコ タマウリパス州	ベルギー ルーバン	イギリス リバプール	イギリス グラスゴー	フィリピン マニラ	中国 浙江省	中国 吉林省	インド ケララ州	
エネルギー	電力	43,077MWh	6,336MWh	1,737MWh	894MWh	3,525MWh	34,300MWh	162MWh	1,857MWh	9,780MWh	9,271MWh	693MWh	2,216MWh
	ガス	783,453 m ³	10,209 GJ	447 m ³	14,817 m ³		84,176 GJ	137 m ³	5,937 GJ		71 t		9 t
	水資源	60,219 m ³	6,113 m ³	61 m ³	864 m ³	2,156 m ³	71,696 m ³	290 m ³	13,849 m ³	35,000 m ³	288,792 m ³	35,485 m ³	31,947 m ³
廃棄物	廃棄物(一般・産業)	824 t	16 t	4,608 ft ³	83 t		1,036 t		1,770 yds ³	105 t	59 t	109 t	258 t
	有害廃棄物	88 t	11 t	11,040 lbs	427 lbs	15 t	174 t		3,000 ℓ	8,100 ℓ	10 t		
	リサイクル量	239 t	70 t	20,320 lbs	152 t		168 t		320 yds ³	400 ℓ	28 t		28 t

コミュニケーション

テルモでは、お客様、社員、地域・社会に向けて、環境報告書、社内報などのさまざまなコミュニケーションツールを作成し、会議・シンポジウムに参加するなど、積極的にコミュニケーションを図っています。

お客様とのコミュニケーション

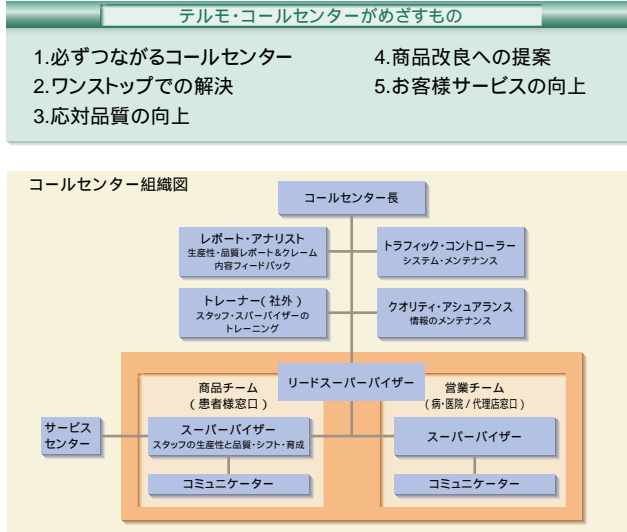
テルモ・コールセンター

2002年4月に社内の各問合わせ窓口をテルモ・コールセンターとして一本化し、スタートしました。

現在では、医療機関、お取引先をはじめ、一般のお客様に至るまで、一日約1,500件のお問い合わせに対応しています。

コールセンターは、どの部門よりも多くのお客様の声をダイレクトに、しかもいち早く収集できる組織であり、お客様と接するコミュニケーションは企業の代表として、お客様との信頼関係を構築していく最も重要な役割を担っています。

テルモ・コールセンターのコミュニケーションはコールセンターの主役としての自覚と責任を持って、毎日、お客様とのコミュニケーションに努めています。

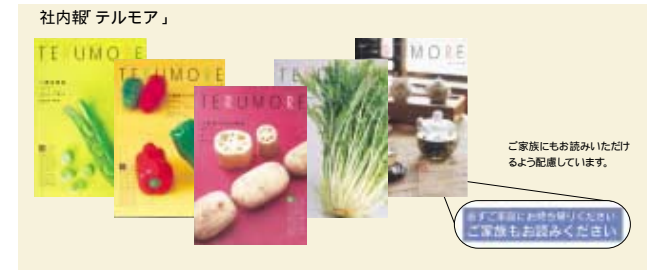


社員とのコミュニケーション

社内コミュニケーションツール

テルモでは社員とのコミュニケーションを大切にしています。企業ブランドは社員一人ひとりが創り上げるものであり、社員一人ひとりの意識が会社の変革に大きな力を生みます。

テルモでは社内コミュニケーションツールとして毎月のビデオニュース、毎週更新するイントラネット、年4回の冊子「テルモ」を発行しています。ビデオニュースでは経営の方向性を全社で共有すること、及び社員の意識改革を目的としています。イントラネットは新たな社内のニュースを次々に紹介する情報ツールとして活用されています。また、冊子「テルモ」は社員とご家族にもお読みいただける内容とし、コミュニケーションの幅を広げています。



ビデオニュース



イントラネット画面

地域・社会とのコミュニケーション

環境報告書などの活用

テルモでは、地域・社会とのコミュニケーションを図るため、環境報告書、アニュアルレポート、事業報告書などを発行しており、これらの冊子はホームページ上でも掲載しています。さらに、個人投資家のみならず向けに「テルモ四季報」をホームページ上で掲載しています。



ホームページアドレス

- ・環境・社会報告書
<http://www.terumo.co.jp/environment/index.html/>
- ・アニュアルレポート
<http://www.terumo.co.jp/ir/index.html/>
- ・事業報告書
<http://www.terumo.co.jp/ir/index.html/>
- ・テルモ四季報
<http://www.terumo.co.jp/ir/shikiho/index.html/>

東京都病院協会環境会議

2003年10月、東京都病院協会の環境会議において、テルモ製品の使用時の環境負荷を少なくするための取り組みについて講演しました。主な内容は次のとおりです。

- ・注射器減量化
- ・包装材の削減
- ・注射器やバイアル瓶の使用量を少なくした製品
- ・緩衝材のダンボール化
- ・針が露出しない血糖計の穿刺針等廃棄物の取り扱いを容易にした製品
- ・事業所における取り組み(分別リサイクルの推進、廃棄物処理業者の現地確認等)



東京都病院協会環境会議

富士山憲章シンポジウム

2003年11月に開催された「富士山憲章シンポジウム(主催:静岡県環境森林部)」で、富士宮工場の用水削減への取り組みについて発表を行いました。

今後、工場内で水の4R(リデュース(削減)リプレイス(用途変更)リユース(再利用)リサイクル(再利用))を推進し、水資源の有効活用と節水を実践していきます。

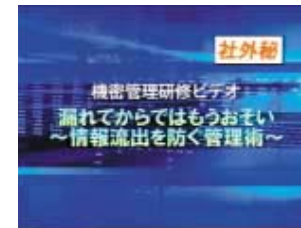


富士山憲章シンポジウム(「富士山の水」分科会)

ビデオ学習

昨今頻発している情報漏洩事件を受け、テルモの情報セキュリティを徹底するため、2003年10月に、テルモでは、テルモ企業倫理委員会の監修のもと、機密管理研修ビデオ「漏れてからではもうおそい～情報流出を防ぐ管理術～」を自主制作しました。ビデオの出演者は全てテルモの社員のため、コンプライアンス推進の新しい試みとして社内で好評を得ました。

ビデオの内容は、テルモの社員一人ひとりが日頃業務活動を行う中で情報漏洩を発生させるおそれのある様々なシチュエーションを盛り込み、テルモ社員が自ら出演しています。さらに、機密管理の要点が短時間で楽しく学べる内容になっています。



機密管理研修ビデオ

マナーワークショップ開催

2003年11月に全国の営業拠点で一斉に「マナーワークショップ」を開催しました。マナーについて日頃の営業活動での経験をお互い披露し合ったり、意見交換をすることで、一人ひとりが自分のマナーやサービスを振り返るよい機会となりました。ワークショップでの「気づき」は、それぞれの拠点での実行目標として、「マナー宣言」という形でまとめられました。自主的に独自の取り組みをはじめた拠点もあります。



マナーワークショップの参加者

社会貢献活動

テルモでは「医療を通じて社会に貢献する」ことこそ、企業の社会的責任であると考え、さらに、災害支援、献血、森づくりなど、さまざまな社会貢献活動を推進しています。

社会貢献

テルモ富士山森づくり

2003年8月、「NPO法人富士山自然の森づくり」と共催で第1回「テルモ富士山森づくり」が行われました。国有林に植えられたブナの苗木を守り育てるため、50名を超える参加者がススキなどの下草刈りをしました。参加者からは、「地道な活動ですが、



ススキなどの下草刈りの様子

献血

2003年は各事業所とも献血を実施しました。参加者は富士宮工場：80名、愛鷹工場：108名、甲府工場：266名、湘南センター：35名、本社：167名の計656名でした。

また、湘南センターが献血推進功労者として日本赤十字社神奈川県支部より表彰されました。今回の受賞では、十数年にわたる、継続的な実施が評価されました。

献血に関する実施回数と表彰歴

事業所名	実施回数	表彰歴
本社	年2回	2000年に銀色有功章授与
湘南	年2回	2003年に金枠感謝状授与
富士宮	年2回	-
愛鷹	年2回	2002年に金色有功章授与
甲府	年3回	2000年に厚生労働大臣感謝状授与

とても有意義で気分転換にもなります。これからも活動に参加していきたいです」子どものころから自然に親しみ、また、ボランティア活動に参加することは、将来の社会参加を促す意味でも大変有意義なことだと思います」などの感想がありました。



テルモ富士山森づくりの参加者

クリスマスイルミネーション

湘南センターではクリスマスの約1週間前から建物にイルミネーションの飾り付けを行います。これは湘南センターの真向かいに位置するホスピス(財団法人ライフプランニングセンター ピースハウス病院)の入院患者様に楽しんでいただければと考え、1997年より実施しています。

毎年、クリスマスの夜には花火を打ち上げます。花火当日は多くの入院患者様をはじめ、そのご家族も集まってご覧いただいています。



クリスマスイルミネーション

多摩川清掃

2003年11月、調布市主催の多摩川クリーン作戦に参加しました。当日は、天候にも恵まれ、流域の各団体から多くの参加者が集まり、ゴミ拾いに汗を流しました。環境に対して改めて考える機会となった、すがすがしい秋晴れの一日でした。



多摩川清掃の参加者

「夏休み工場見学」開催

2003年8月、甲府工場にて工場見学会が開催され、幼稚園児から高校生まで46名の参加がありました。参加者は注射器や輸液セットを作る大きな機械を見学しました。



夏休み工場見学

テルモ科学技術振興財団

テルモ科学技術振興財団は、生命科学にかかる素材、生物工学、生体防御機構、生体計測、病態生化学等各分野の科学技術に関する研究の助成と振興に努めることを目的として1987年に設立しました。2003年度にテルモ科学技術振興財団へ2,000万円寄付しました。

災害支援

宮城県北部地震

2003年7月末に宮城県北部では強い地震が連続し、大きな被害を受けました。仙台支店は被災された直後の4町(鹿島台町、南郷町、河南町、矢本町)を慰問し、栄養補助食品と血圧計を寄贈しました。

イラン南東部地震

2003年12月末にイラン南東部でM6.7の地震が発生しました。震源地に近いバム市一帯では住民の半数に当たる約12万人が被災しました。テルモは、輸液セットや血液バッグなど約900万円相当の援助を行いました。

TOPICS 災害支援担当者のコメント(宮城県北部地震)

ニュースを見て、学校の体育館などに避難している方々の何かお役に立ちたいと考えました。ストレスで食事が摂れない方、血圧が高くなってしまった方と思い、栄養補助食品と血圧計を寄贈しました。南郷町では直接避難所へ伺い、保健師さんにお渡ししたところ大変感謝されました。

ちょっとしたことでありますが医療を通じて社会に貢献するというのが、病院だけではなく生活している人達にも言える実例だったと思います。

テルモは2003年7月に企業倫理賞を受賞しましたが、テルモ倫理コードにも「良き企業市民であれ」と制定されていますし、その意識を常に持ち、何かが起きたら自然に体が動かないといけないうえですね。



ホスピタルカンパニー
仙台支店長
甲斐 香

家族への施設開放

テルモメディカルプラネックス

2003年10月にテルモメディカルプラネックス(医療機関と共同で最新技術の開発や医師への技術トレーニングを行う施設)で家族見学会がありました。プラネックスには300名近くの人が集まり、製品体験や手術室などの内部見学を行いました。製品コーナーではガイドワイヤー(細い針金)

を血管の模型に通したり、無菌接合装置を使うなどの体験ができ、ご家族だけでなく社員の中にもテルモの技術に驚く場面が見られました。施設内部には、携帯電話をX線透視したり、内視鏡を実際操作してみたりと、プラネックスならではの企画もありました。



家族見学会の様子

プラネックス全景

社会表彰

テルモは2003年度に以下の表彰・感謝状を授与されました。

- 企業倫理賞
- IR優良企業賞
- 名東警察からの感謝状
- 愛知腎臓財団からの感謝状
- 神奈川建築コンクールの奨励賞
- 3R推進協議会会長賞



IR優良企業賞の受賞式



愛知腎臓財団からの感謝状

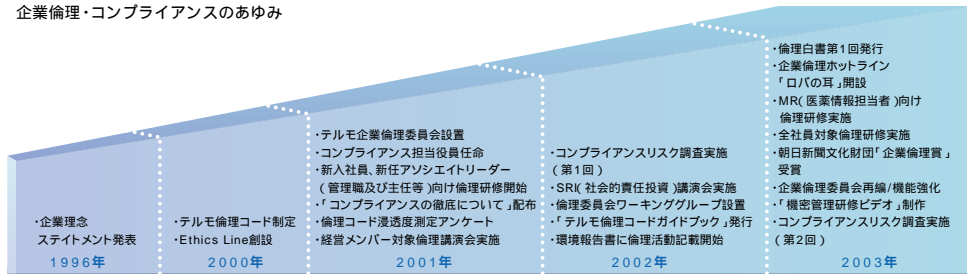
テルモの外部評価

ランキングの内容	2003年	2002年	対象企業数
日経優良企業ランキング「規模」「収益性」「安全性」「成長力」から評価	99位	96位	約2,300社
日経プリズムランキング「柔軟性・社会性」「収益・成長力」「開発・研究」「若さ」の4つの観点で優れた会社を評価	128位	112位	2,070社
朝日新聞文化財団 有力企業の社会貢献度	24位	41位	418社
日経環境経営度ランキング	150位	434位	1,772社
日経コーポレートブランド価値ランキング	89位	84位	680社
日経ビジネス コーポレートガバナンス総合ランキング	4位	-	2,259社
光文社 上場企業ホームページ格付け総覧	13位	-	2,664社

企業倫理 / コンプライアンス

テルモでは、「医療を通じて社会に貢献する」との企業理念のもと、広く世界の医療の場に、価値ある、安全な製品・サービスを安定的に供給することが「企業の社会的責任」であると認識しています。この認識のもと、テルモでは、社会から「良き企業市民」としての信頼を受け、支持される存在となるために、法令を厳守するとともに、高い倫理観に立って、今後とも事業活動を行ってまいります。

企業倫理・コンプライアンスのあゆみ



企業倫理ホットライン「ロバの耳」開設

「社員全員で会社をよくしよう」「社内の風通しをよくしよう」のスローガンのもと、企業倫理ホットライン「ロバの耳」を開設しています。この「ロバの耳」は、テルモ倫理コードに照らして気になる内容・状況について、社員だけではなく、派遣社員も幅広く相談・連絡ができます。また実名・匿名を問わず利用でき、「ロバの耳」事務局メンバーと呼ばれる5名の相談員のほか、テルモの顧問弁護士がプライバシー保護と不利益禁止を徹底しながら丁寧に対応します。

2003年度は、事務処理に関する相談5件、法令・ルール(社内・業界)に関する相談4件、企業風土に関する相談12件、その他の相談が1件あり、合計22件でした。



テルモインターネット画面(企業倫理ホットライン)

テルモ倫理コード

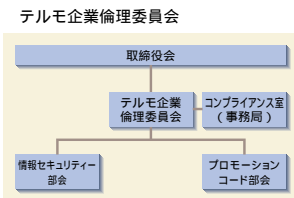
テルモは、2000年4月に、「テルモ倫理コード」を制定しました。このテルモ倫理コードは、10項目の行動指針に加え、「たとえ、会社の利益につながる場合であっても、テルモ倫理コードに反すると疑われるような行為をしてはならない」ということを明確に謳っています。さらに「テルモ倫理コードガイドブック」を作成することで社員への顧問弁護士がプライバシー保護と不利益禁止を徹底しながら丁寧に対応します。



テルモ倫理コード携帯版(表・裏)

体制

テルモでは、企業倫理・コンプライアンスを社内へ浸透させるための統轄組織として、「テルモ企業倫理委員会」をコンプライアンス担当役員である高橋副社長(当時)を委員長として、2001年度に設置しました。「社員の倫理観の醸成(人へのアプローチ)」及び「倫理・コンプライアンスの風土・仕組み作り(組織へのアプローチ)」をコンセプトに、企業倫理・コンプライアンスの推進に関するテーマについて、熱心な議論を行っています。



企業倫理啓発・研修

テルモでは、以下の倫理研修を行いました。新入社員向け倫理研修(3~4月) 新任アシエイトリーダー向け倫理研修(7~8月) MR(医薬情報担当者)向け倫理研修(4、9、11月) 機密管理研修ビデオ制作(10月) 全社員向け倫理研修(7~12月)

TOPICS コンプライアンス室の発足

2004年4月付けで「コンプライアンス室」が発足しました。今や「コンプライアンス」は経営にとって不可欠なテーマです。また、「コンプライアンスの徹底は「CSR(企業の社会的責任)」の重要な柱と位置付けられています。

コンプライアンス室では、テルモの企業倫理・コンプライアンスのさらなる浸透・定着を図るため、次の2つのミッションに取り組んでいきます。

コンプライアンス室ミッション

- 1.テルモの企業文化にマッチした最適なコンプライアンス・プログラムの構築・定着
- 2.コンプライアンスの取り組みの社内外への発信を通して企業価値の向上に貢献



コンプライアンス室長 中島 慎一郎

人事 / 雇用 / 労働安全 / 福利厚生

私たちは、個の尊重と、安全で働きやすい労働環境の整備を通じて、社員一人ひとりが持てる能力を發揮し、いきいきと働ける企業風土作りに努めています。

人権尊重

人権の尊重は、企業活動、労働環境に密接に係わるものと位置付け、積極的に啓発に取り組んでいます。取締役、経営幹部を対象にした研修の定期的実施をはじめ、新任役職登用者研修、採用時研修等、全社で人権尊重に対する意識向上を図っています。社員一人ひとりが業務を行う上ではもちろん、日常生活においても、人権に対して高い意識を持った「良き企業市民」となるよう、今後もさらに力を注いでいきます。

労働組合との関係

テルモにはいぜんセン同盟を上部団体とするテルモ労働組合と化学一般労連を上部団体とする全テルモ労働組合の2つの労働組合があり、ユニオン・ショップ制となっています。2004年3月末現在の加入員数は、テルモ労働組合が3,177名、全テルモ労働組合が59名のあわせて3,236名となっており、国内社員の約82%になります。労使間では、労使協議会を中心としてより良い会社にしていくために、様々な内容について話し合っています。

男女雇用機会の均等

テルモでは、脱年功、チャレンジ支援、評価の透明化を基本とする、テルモ独自の「能力貢献度主義」により、能力と業績に応じた処遇を行っており、採用、役職登用、配属、賃金体系等の人事諸施策の実施について、性別による差別は一切ありません。このような、男女を区別しない人事の仕組みを導入し、促進していることが評価され、2001年には、「東京労働局長賞」を受賞しました。

また、男女雇用機会の均等だけでなく、

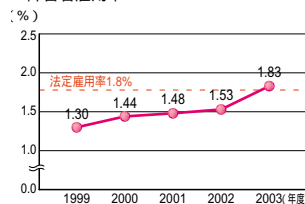
セクシュアル・ハラスメントについても、研修を通じて、意識向上に取り組んでいます。

セクシュアル・ハラスメント研修資料

障害者雇用

2003年度の障害者雇用数は50名(うち重度は24名) 障害者雇用率は1.83%で、法定雇用率1.8%を上回りました。テルモは、今後も障害者雇用促進に努めるとともに、障害を持つ社員の皆さんに対しても働きやすい職場づくりを進めていきます。

障害者雇用率

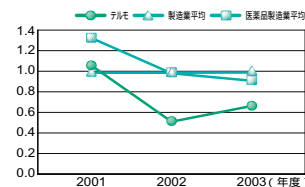


労働安全衛生

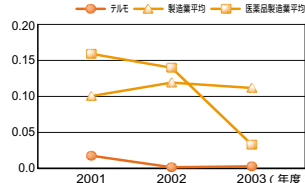
各事業所で開催される月1回の安全衛生委員会を中心に、より安全で快適な職場環境づくりを推進しています。各生産現場では、安定稼働・品質向上とともに、労災ゼロを工場運営の柱とし、ゼロ災害に向けた様々な取り組みを行っています。

また、交通安全についても、社員安全の観点だけでなく、社会の模範となるよう意識向上を図っています。全事業所において、最低月1回は交通安全に関するミーティング、講習、自主活動を実施し、事故違反ゼロ実現を目指しています。

度効率*



強度率**



各種休業・休暇制度

育児休業制度の活用のために、2004年7月から育児休業の期間を特別な事情がある場合には1年6カ月まで(その時点で事情に変化がなければさらに6カ月)延長し、あわせて子どもの看護休暇(年間5日以内)を設定いたしました。また、介護休業制度についても、1992年の制度導入時から最長1年まで取得できる制度としています。その他、失効有給制度、半日有給制度を導入し、より安心して働くことのできる職場づくりを目指しています。

心身の健康づくり

医療に携わる企業として、社員の心身の健康管理も様々な形でサポートしています。体の健康作り施策としては、各種法定検診に加え、健康保険組合主導での歯科検診、生活習慣病検診、社員のご家族も含めた主婦検診など各種検診を実施しています。また、楽しみながら参加できる、「紙上ウォーキング大会」などを積極的に企画し、健康増進意識の向上に繋げています。

この他にも、健康面の相談を電話で行うことのできる外部窓口の設置や心の健康づくり施策として、産業医等による社員向けの講演会・研修、外部相談窓口の開設など予防に重点を置いた各種取り組みを行っています。



紙上ウォーキング大会

*1 度効率とは、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死者数で、災害発生頻度を表します。

$$\text{度効率} = \frac{\text{労働災害による死者数}}{\text{延べ実労働時間}} \times 1,000,000 \text{時間}$$

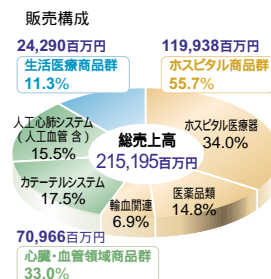
*2 強度率とは、1,000延べ実労働時間当たりの労働損失日数で、災害の量さの程度を表します。

$$\text{強度率} = \frac{\text{延べ労働損失日数}}{\text{延べ実労働時間}} \times 1,000 \text{時間}$$

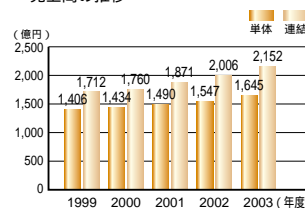
年	環境活動のあゆみ	社会活動のあゆみ
1995		テルモニュースビデオ版スタート オンコールチームを新設
1996	特定フロンの使用廃止(甲府工場) 新型プラスチック瓶針輸液セットの生産を開始 脱金属針により、病院内分別・焼却の容易化	企業理念ステイトメント発表
1997	環境推進室を設置 コージェネレーション(電熱併給)発電を開始(甲府工場) LPGから都市ガスに変更(富士宮工場・愛鷹工場) 重油の使用全廃	オンコールチームをCS(カスタマーサービス)チームに 名称変更 目標チャレンジ制度を導入 ACE公募の開始 湘南センターにおいてクリスマスイルミネーション開始
1998	注射器の小型・軽量化を実施 注射器廃棄重量を約25%削減 コピー用紙の再生紙への切り替え開始	テルモ・エキスパートシステム(再雇用制度)を導入 人工心臓歴史資料展示コーナーを研究開発センターに開設 (現在はテルモメディカルプラネックスに移転)
1999	テルモ環境基本方針を制定 コージェネレーション発電を開始(富士宮工場) カタログ、仕様変更案内など、再生紙への切り替え開始 家庭で使用する腹膜透析液容器の脱塩ビ化を開始、 焼却時に有害ガスを発生しないポリプロピレンに変更、 廃棄重量を40%削減	就業規則改訂(セクシュアル・ハラスメント禁止追加など)
2000	環境委員会を発足 コージェネレーション発電を開始(愛鷹工場) 容器包装の再資源化を、(財)日本容器包装リサイクル協会 に委託開始 容器包装識別、材質表示も順次開始 内部環境監査を開始 営業用ディーゼル車を全廃 環境報告書を発行(以降、毎年発行)	テルモ倫理コードを制定 Ethics Lineを創設
2001	焼却炉運転停止(愛鷹工場・甲府工場) PCB含有機器の使用を廃止し、全てを保管 非塩ビ製素材の小児用輸液セットの販売開始 富士山一斉清掃に社員と家族が参加(富士宮地区)	テルモ企業倫理委員会設置 新入社員、新任アシエイトリーダー向け倫理研修開始
2002	甲府工場でベンゼン・クロロホルムの全廃 焼却炉撤去(愛鷹工場・甲府工場) 富士山一斉清掃(甲府地区・富士宮地区) 観測井戸設置(地下水質監視、甲府工場) DEHPの代替可塑剤を使用した輸液セットの販売開始	テルモコールセンターを発足 テルモメディカルプラネックスが完成 倫理委員会ワーキンググループを設置 テルモ倫理コードガイドブックを発行
2003	ゼロエミッション達成(愛鷹工場、本社) LPGから都市ガスに変更(甲府工場) 海外事業所の現地調査を実施 テルモ富士山森づくりを開始	企業倫理ホットライン「ロバの耳」を開設 機密管理研修ビデオを制作
2004		コンプライアンス室を発足

会社概要

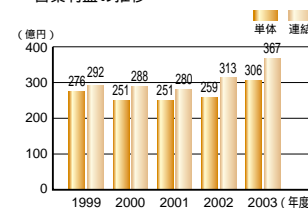
名称：テルモ株式会社
 設立：1921年9月
 資本金：387億円
 連結売上高：2,152億円(2004年3月期)
 代表者：代表取締役 会長兼最高経営責任者(CEO) 和地 孝
 社員数：4,040名(テルモグループ9,094名：2004年3月末)
 本社所在地：〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-4-4-1 03-3374-8111(代)
 事業内容：医薬品・栄養食品、血液バッグ、人工心肺システム、カテーテルシステム、
 各種ディスプレイ医療器具、腹膜透析関連、血糖測定システム、
 ME機器・電子体温計など医療用機器の製造・販売
 株式会社：東証一部上場



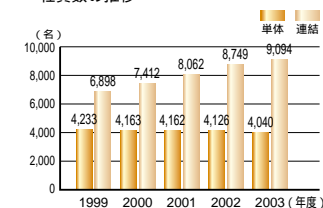
売上高の推移



営業利益の推移



社員数の推移



国内事業所

本社：東京都渋谷区幡ヶ谷2-4-4-1
 湘南センター：神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1500
 富士宮工場：静岡県富士宮市三園平818
 愛鷹工場：静岡県富士宮市舞々木町150
 甲府工場：山梨県中巨摩郡昭和町築地新居1727-1



本社



湘南センター



富士宮工場



愛鷹工場



甲府工場

TERUMO®

人にやさしい医療へ

テルモ株式会社

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1

<http://www.terumo.co.jp/>

お問い合わせ先 環境推進室

TEL : 03-3374-8191

FAX : 03-3374-8905

e-mail : Kankyou@terumo.co.jp

